

機械器具 15 舌圧子  
一般医療機器 舌圧子 14066000  
**エルゴプラント 舌圧子**

**【形状・構造及び原理等】**

## 1. 形状、構造



写真は、本品の一例を示す。

## 2. 原材料

ステンレススチール

## 3. 原理

先端の作業部分により口腔内の舌を抑える。

**【使用目的又は効果】**

舌を移動させて、周辺臓器及び組織の検査を容易にするために用いる。

**\*\* 【使用方法等】**

- \*\* 1. 本品は使用前に洗浄、滅菌を行う。  
2. 先端の作業部分により、口腔内の舌を抑える。  
\*\* 3. 使用後は適切にできるだけ早く洗浄を行う。

**\*\* <使用方法等に関連する使用上の注意>**

## 1. 使用前

- 新品を使用する際は洗浄を行ってから滅菌をすること。
- 損傷、磨耗、又は機能していない部位がないかを必ず点検すること。

## 2. 使用中

- 血液や組織片は局方滅菌精製水をひたしたリントフリークロス  
の柔らかい布でこまめに清拭すること。
- 視野の行き届かない術野で使用しないこと。

**\*\* 【使用上の注意】**

## &lt;不具合・有害事象&gt;

以下の不具合・有害事象が発現する可能性がある。

## [重大な不具合]

- 不適切な取り扱い、洗浄、管理により破損、変形、腐食、変色、  
屈曲が生じる可能性がある。
- 金属疲労による機械器具の破損

## [重大な有害事象]

以下のような有害事象が発現した場合は、直ちに適切な処置を行うこと。

- 不適切な取り扱い、使用方法により血管、口腔内組織の損傷
- 感染症

以上の有害事象の治療のため、再手術が必要な場合もある。

**\*\* 【保管方法及び有効期間等】**

## &lt;保管方法&gt;

- 高温・多湿・直射日光及び水濡れを避けて保管して下さい。院内  
での移動保管に際しては本体に衝撃が掛からないように取扱い  
に注意して下さい。
- ステンレススチールとアルミニウムのように異種金属の手術機  
器は、原則として別にセットして下さい。これは長期間保管の際  
に異種金属同士の電解沈着を防止するためです。

**\*\*【保守・点検に係る事項】**

- 適切な洗浄、取扱及び滅菌、そして標準的な日常メンテナンス  
を怠った場合、器具の機能低下要因となる。

\*\* 溶液（例：生理食塩水、次亜塩素酸ナトリウム、ヨード含有消  
毒剤など）にはステンレススチールに腐食や孔食を起こしやすい  
ものがあるため長時間の接触を避ける、接触後は迅速に洗い  
流すこと。

\*\* 漂白剤や水銀の重塩化物などの強酸（pH4 以下）又はアルカリ  
（pH10 以上）製剤を消毒に使用しないこと。

\*\* ステンレススチール製の手術器具を長時間血液や生理食塩水  
にさらすと腐食が生じ、孔食や磨耗の発生原因になる。

## 1. 洗浄・滅菌

- 血液や体液に汚染された器具を取扱う際は、適切な保護手袋、  
保護メガネ、保護服を着用すること。
- 器具に付着した血液及び体液は乾燥させないこと。
- 壊れやすい手術器具は先端の損傷を防ぐために注意して取り  
扱うこと。特に洗浄及び滅菌の際は注意すること。
- 金属間の電解作用を避けるため、異なる金属組成の器具は  
別々に処理すること。
- 血液や体液に汚染された手術器具を安全に取り扱うために、  
必ず以下に概説する手順に従うこと。

## (1) 洗浄

- 粘液、血液、その他の体液の凝固を防ぐため、手術器具を熱  
湯や消毒剤に浸けないこと。
- 金属ブラシ（スチールウール、ワイヤーブラシ、パイプクリ  
ーナー等）や硬質ナイロンスポンジ、研磨剤入り洗剤を使わ  
ないこと。

## ① 予備洗浄

- おおまかな汚染物を除去し、各器具を十分にすすぐこと。  
生理食塩水や塩素系溶液は使用しないこと。

## ② 手作業による洗浄

- 洗浄中は器具を洗浄液に完全に浸漬させること。
- 手作業による洗浄には、酵素が配合された洗浄剤や、蛋白  
質凝固変性作用のない洗浄剤を使用すること。強固に付着  
した汚れは洗浄液の中で軟らかいブラシ等を用いて洗浄  
すること。洗浄剤の濃度、温度、時間、及び再利用の可否  
に関しては洗浄剤の取扱説明書に従うこと。
- 手作業による洗浄／消毒後に目視で表面の残存物を点検  
すること。
- 必要に応じて洗浄処理を繰り返すこと。

## ③ 超音波洗浄及びウォッシャーディスインプেকター

- 超音波洗浄を行う場合の水位や洗浄剤の濃度、温度に関し  
ては洗浄機の取扱説明書に従うこと。
- ウォッシャーディスインプেকターを用いる場合は、洗浄  
機の取扱説明書に従い、低発泡性の洗浄剤を使用すること。  
消毒及び洗浄を最適に行うためには、水質によって洗浄剤  
の種類と濃度を調節する必要がある。
- ウォッシャーディスインプেকターを用いる場合は、洗浄  
機の取扱説明書に従い、洗浄用バスケットに器具を詰め過  
ぎないように配置し、陰を作らないようにすること。

## ④ すすぎ

- すすぎには完全脱イオン水（RO 水）を使用すること。市  
水（一般の水道水）に含まれる残留塩素や有機物質が器械  
表面のしみや錆発生の原因となる。

## ⑤ 乾燥

- 洗浄後の機器は直ちに乾燥させ、湿った状態で放置しない  
こと。エアガンを用いて水分を除去すること。

## (2) 滅菌

器具の滅菌は高圧蒸気滅菌（プレバキューム式）によって  
行って下さい。推奨される滅菌条件は以下のとおりです。  
134℃、5 分

**\*\* 2. 日常のメンテナンス**

＜注油/組立て？＞

- 先端が折れ曲がっていたり、くぼみ、亀裂、ずれや腐食がないかを点検すること。
- 錆、変色又は損傷した器具は必ず取り除くこと。
- 可動部分を点検し、各部が正しく作動することを確認すること。

**【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】**

製造販売元：ビー・ブラウンエースクラップ株式会社

問い合わせ窓口：マーケティング部 TEL (03) 3814-2522

製造元： エースクラップ社、ドイツ

Aesculap AG